

## ●<sup>ししゅうびょう</sup>歯周病を治療するための<sup>けんさ</sup>検査

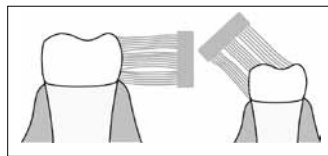
歯周病治療を行うために、

- ① プラークの歯への付着状態を知るための検査
- ② 歯と<sup>は</sup>歯ぐきのすき間（歯周ポケットと言います）の深さを知るための検査
- ③ 歯の<sup>どうよう</sup>動揺の度合を調べる検査
- ④ 歯周病の<sup>はあく</sup>進行度合を<sup>たいがいしんだんけんさ</sup>把握する体外診断検査を行います。



すなわち、

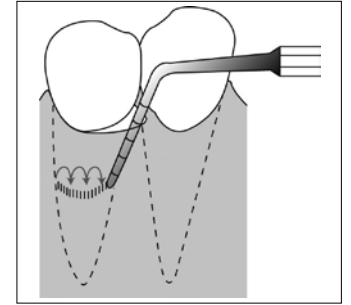
- ① プラーク染め出し用の赤や紫色などの着色液を歯の表面およびその周囲に塗り、色が染まったプラークの位置を確認します。これによって、ブラッシングの方法を指導します。
- ② 歯周ポケット（歯と歯ぐきのすき間）の検査



ポケット測定用の器具を、歯と歯ぐきの間に挿入し、歯周ポケットの深さを測定します。

一般的に、歯周ポケットの深さが2～3mm まではほぼ正常と考えられていますが、<sup>ししゅうえん</sup>歯周炎に進行する可能性があることから、予備軍として考えた方がいいです。

歯周ポケットの深さが4mm 以上になると、歯の周りの組織は破壊されている状態にあることから、治療が必要であり、放置すると歯を失うことになります。



### ③<sup>どうようど</sup>歯の動揺度の<sup>けんさ</sup>検査

この検査は、歯の動揺の程度を調べるもので、歯の動きの方向や度合を知ることにより、歯の周囲の骨の破壊の程度がわかります。



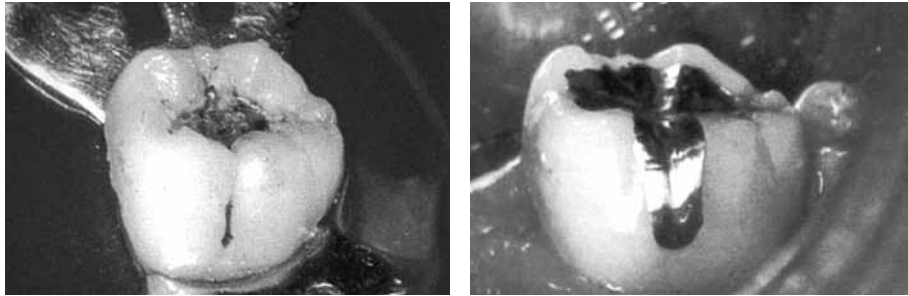
また、検査時の痛みの有無で歯周炎の進行度が判断されます。

いずれにせよ、歯の動揺が激しい時は<sup>じゅうしょう</sup>重症です。

### ④<sup>はあく</sup>歯周病の進行度合いを把握する体外診断検査

体外診断検査には、①ポケット内に存在するプラークから特定の<sup>ししゅう</sup>菌周<sup>びょうげん</sup>病原細菌<sup>さいきん</sup>数を測定する方法、②だ液中に含まれる血液（ヘモグロビン）量を測定する方法、③細菌の毒素によって歯周組織が破壊されて放出されるバイオマーカーを歯と歯ぐきのすき間（歯肉溝）から出る<sup>しんしゅつえき</sup>滲出液を用いて測定する方法などがあります。

最近発売されたPTM キット（松風社）は、歯周組織の破壊によって放出された<sup>こうそ</sup>酵素（AST：アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ）の



術前

術後

## 2. 金属を用いた治療

歯科領域では、メタルインレー修復法と言われています。この治療法は、広範囲に進行したむし歯の治療に用います。使用する金属は金合金と言うものです。むし歯を取り除いたところの型を採り、製作した金属片を、セメントを用いて合着します。金属色であり、かむことに対して安定していることから、奥の歯に用います（上の図）。

## 3. レーザーを用いたむし歯の治療 ➡ 無痛治療法です !!

近年、エルビウムヤグレーザーといった歯科用レーザーを用いて、痛くなく、むし歯を削る方法が開発されました。

この方法は、レーザーのエネルギーを歯の構造物であるカルシウムやリンをつないでいる水分成分に吸収させ、その結合を蒸発させてばらすことで、むし歯の部分を殺菌しながら、ほぼ無痛で蒸散する（削る）ことができるものです。

これから普及していく最新の方法です。



# お口の力ベ新聞

## むし歯のつめ物(コンポジットレジン)は進化しています

古くは、むし歯（う蝕と言います）の治療に使用するつめ物（歯科材料と言います）は、歯に対して接着することはありませんでした。

そのことから、つめ物が取れる可能性があり、そのつめ物を取れにくくするために、歯を過大に削る必要がありました。

「以前には、むし歯の治療を受けた際、思ったより多く削られた」との意見が多くありました。

また、むし歯の治療を行ったにもかかわらず、再度、むし歯が生じることがありました。これを解決することは難しく、技術の差によるものと言われていました。

そこで多くの研究者たちは、新しいつめ物（コンポジットレジン）の研究を行いました。私たちもその結果から、新しい接着する材料と方法が開発しました。また、むし歯に対して強い抗プラーク性コンポジットレジンで筆者のグループが開発し、現在、広く使用されています。

## 審美性の回復

アメリカの人々は、ヨーロッパ・日本などと異なり、歯の審美により関心をもち、美しい歯をステータスとしています。

日本でもその傾向が高くなっているのが現状です。

### 1. 歯科矯正治療

歯の矯正治療が、歯の美容の主となっています。歯並びが悪い（歯列不正と言います）人たちを対象に歯科矯正治療が行われており、歯の大きさとあごの骨の大きさに不調和を有することから、歯並びに異常が生じると言われています。

歯列不正は、将来にお口の機能障害を認め、種々の歯科疾患におちいる可能性が高いことから、できるだけ早期に治療を受けることが望ましいと言われています。



術前



術後

## お口の力べ新聞

### 歯の矯正治療は痛みを伴いますか？

その痛みは日常生活に支障ないものといえます。痛みの程度については個人差が認められます。

痛みに関しては、奥歯の間に装置を入れる時の痛み、ワイヤーなどを装着して歯が動きはじめる時の痛み、装置を装着した時の違和感などがあります。これらの痛みは数日で治ります。

以前に比べ歯の矯正のための装置は進化し、治療期間が短縮される傾向にあります。

### 大人になっても歯並びを治すことができますか？

歯の根を支える骨などの組織が健康ならば、基本的に年齢に関係なく、歯科矯正治療は可能です。

歯の周りの組織は、歯のほうから歯根膜、歯そう骨、歯ぐきからなっています。歯並びをよくするには、歯に装置を装着し、力をかけて骨の中で歯を移動します。

大人はあごの成長が止まり、あごの骨の形が完成されています。このことから、歯の移動は年齢が低いほうが早いです。

また、歯を適切な位置に移動した後、後もどりを防ぐために、歯を移動した期間と同じ程度の期間、歯を適切な位置に保つことが必要です。これを保定と言います。骨折した時と同じで治りは若い人のほうが早いことから、大人の保定期間は長くなります。

このように、大人の歯並びの矯正治療は治療期間が長くなります。